

診療所実習を通して学んだこと

1年 MW

私は7月21日にあかりこどもクリニックで実習をさせていただいた。実習の初めに、院長の北原望先生がクリニックの内装について説明してくださった。北原先生の奥さまがデザインされた「ぼわんちゃん」といううさぎのキャラクターを壁に貼り、見つけて楽しんでもらうことで、子どもの病院やクリニックへの恐怖心を和らげる工夫がなされていた。また、窓にはステンドグラスを施し、授乳室はお母さんが落ち着けるよう照明にまでこだわったラグジュアなデザインにするなど、子どもだけでなく親も過ごしやすくなるような気づかいが随所に見られた。

午前中は主に診察の見学をさせていただいた。コロナ対策として、少しでも咳などの症状がある患者は隔離室で診察をしていることや、症状の軽い患者には電話診察や車内診察も受け入れていることを知った。コロナ禍のニーズに合わせた診療形態をとっていることも、患者が安心して診察を受けられる理由の一つなのだと思う。院長先生の診察を見学するだけでなく、聴診やRSウイルスの検査、そして赤ちゃんの予防接種で頭や腕を固定するお手伝いなど実践的なことも体験させていただいた。注射で泣いてしまった子どもにシールをあげて気を紛らわせたり、診察の最後には「バイバイ」と言って手を振ったりすることで「医師は怖い」と思われないようにしていることを知り、小児診療では様々な工夫が必要なのだと感じた。また小児科では、所見よりも話の流れの中で様子を聞き、疾患を見つけ出していくことの方が重要であることを学んだ。北原先生がご両親の話に相槌を打ちながら丁寧に診察をされているのを見て、自分も傾聴能力の高い医師になりたいと思った。

昼休みには、北原先生と一緒に車で数分のところにあるクララクリニックへ行き、新生児の往診を見学させていただいた。兄妹や従兄弟の中で最年少である私は、今まで生まれたばかりの赤ちゃんを直に見たことがなかったため非常に貴重な経験をさせていただいたと同時に、モロー反射をはじめとして、新生児が泣き止むあやし方、産後で不安が多くある母親に対しての言葉の選び方など、多くのことを学ぶことができた。

地域医療における診療所の役割は、小さな症状や相談事でも患者が来院しやすいような雰囲気づくりをし、初期の病気を見逃さないようにすることで疾患を持つ人の数を少しでも減らすことであると考えている。また、地域の診療所だからこそ築くことができる医師と患者の信頼関係もあり、患者のバックグラウンドを考慮し、それに沿った治療ができることも地域医療の醍醐味なのではないだろうか。

最後になりましたが、北原先生をはじめとするあかりこどもクリニックのスタッフの皆様、この度はお忙しい中実習を受け入れてくださり本当にありがとうございました。今回の経験を活かして、今後の勉強に励んでまいります。